

地域包括支援センター坂下通信

認知症の人が住んでいる世界を理解するシリーズ③

もの盗られ妄想は認知症の特徴的な症状のひとつです。「どろぼう」よばわりされるのは、ほとんどが近くで介護をしている家族です。裏を返せば、いちばん安心できる人だから言いたい放題になってしまうのです。

(現れ方の例)

介護をしているお嫁さんに「さいふを盗った」とつめよるので、度重なってくると介護者はへきへきしてしまいます。

自分のお金や大切な物を「盗んだでしょう?」と鬼の形相で介護者を問いつめるのが「もの盗られ妄想」の特徴です。本人は「盗まれた」と思い込んでいるので盗っていないことを説明して納得させることは困難です。また、盗られた物を見つけてあげることは「やっぱり盗んだのだ」と確信させてしまい逆効果になる事もあります。



(対応のコツ：その1)

「お財布がないなんて困ったわね。一緒に探しましょう」と手伝ってあげます。見つけるのも「ほらここに」と一緒に見つけるようにします。

(対応のコツ：その2)

「ごめんなさい。ちょっと借りたの」と話をあわせるのもその場をおさめる一つの方法です。

(対応のコツ：その3)

「お金を盗まれたのですか。それは大変ですね」と第三者が本人の話をしっかり聞いてあげると、怒りを鎮め落ち着かせることができることもあります。

どろぼう役になった人は演技とはいえ相当のストレスを感じています。介護する人が孤立状態にならないよう家族や周囲の人たちの協力が必要です。



地域包括支援センター坂下
春日井市神屋町1306-1

☎：93-1314

開所時間：月～金曜日 9:00～17:30

出前講座開催、福祉サービス等の



ご相談は 左記まで

担当：永杉、木根、戸田、飯田、辻本

地元のお元気さん



このコーナーでは、毎回地域で活動している団体やグループ、介護予防に取り組んでいる方などをご紹介します。

花曜会



今月は神屋団地で活動されている花曜会をご紹介します。神屋団地は昭和42年に造成が始まりました。集会場もありましたが町内会活動のみの利用でした。そこで女性の交流の機会を作りたいと地域住民へアンケート調査を実施し、昭和62年に活動が始まりました。毎月第2の火曜日に集まる事から『花曜会』という名称になり、現在もお茶会や体操、講師をお呼びしての勉強会、旅行などで交流を続けています。

取材当日はスポーツ・ふれあい財団からインストラクターの方をお呼びしてストレッチ体操をされていました。いつまでも元気でいたいと取り組んでおられます。また、地域のイベントにも協力されており、花曜会が主体となって発足した『さくらクラブ』も毎月第1第2第3の月曜日にリズム体操の会として活動しています。



【発足当時から参加されている方から一言】

花曜会はお互いの助け合いをモットーにして親睦を図っています。年間行事を決め代表や月当番の役もありますが、役員の方の負担が大きくなるよう協力し合って活動しています。神屋団地の女性の方ならどなたでも参加できます。一緒に花曜会を続けていきたいですね。



地域包括支援センターとは？

地域包括支援センターは、春日井市の委託により運営される高齢者に関する総合相談機関です。支援が必要な高齢者やその家族の状況に応じた各種の保健福祉サービスが総合的に受けられるよう、情報提供や関係機関との連絡調整などを行います。相談は無料です。お気軽にご相談ください。

